縄文の森　平成２２年度イベントの紹介

第２７回企画展「理科少年の考古学探検記　～科学の目で見る考古学の世界～」

開催期間
4 月 17 日（土）～
7 月 11 日（日）

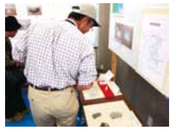
今回は「子どもたちも楽しめる」がテーマ。
考古学と科学は密接な関係にあり、発掘調査から保存処理、その後の収蔵・活用にいたるまで、あらゆる場面で科学的な根拠をもとに、遺構・遺物を取り扱っています。考古学と科学の関係を分かりやすく展示します。

縄文の森不思議探検（新規事業）

第１回「岩石のふしぎ」講師：県立博物館学芸員

期日：7 月 10 日（土）　10：00 ～ 11：30

県内で見られる岩石を紹介しながら、特に古代人が石器として使用した岩石の秘密を探ります。



第２回「大昔のくらしのふしぎ」講師：県立埋蔵文化財センター職員

期日：7 月 29 日（木）　10：00 ～ 11：30

大昔の人たちのくらしぶりを分かりやすく解説し、郷土を調べる楽しさを知る。また、夏休みの自由研究のテーマ・アイデアとなるヒントを与え、どのように研究を行ったらよいかアドバイスします。

第３回「森のふしぎ」講師：県立博物館学芸員

期日：11 月 3 日（水）　10：00 ～ 11：30

縄文の森の秋を堪能しながら、園内にはどのような草木があるのか、フィールドワークを行いながら調べていく中で、９５００年前の上野原縄文ムラの人々の生活を支えた「森」について考えます。

第２８回企画展「新発見！かごしまの遺跡２０１０　県立埋蔵文化財センター発掘速報展～」

開催期間
7 月 17 日（土）～
11 月 28 日（日）
（写真は昨年の展示）

県立埋蔵文化財センターが昨年度調査・研究した遺跡について、最新情報を紹介します。

第２９回企画展「古代アクセサリーの魅力（仮）」

開催期間 12 月 4 日（土）～ 3 月 21 日（月）

上野原遺跡出土の耳飾りが、九州国立博物館の特別企画「古代九州の国宝」展で展示され、NHKのテレビ番組でも紹介され注目を浴びました。今回、この耳飾りを含め縄文時代からのアクセサリーについて展示解説を行います。
是非この機会にアクセサリーの細部までじっくりとご覧ください。

かごしま県民大学連携講座「鹿児島の遺跡に学ぶ」（新規事業）

鹿児島の遺跡から見える先人たちの生活の様子を分かりやすく解説します。特に、第１回は小・中学生を対象に夏休み自由研究のテーマ・アイデアも紹介します。

第１回：「かごしまのむかし」

期日：7 月 27 日（火）　13：30 ～ 15：00
対象：小・中学生　３５名

第２回：「火山と遺跡　～自然と共に生きた南九州の人びと～」

期日：10 月 22 日（金）　19：00 ～ 20：30
対象：一般　３５名

第３回：「９５００年前のムラに生きた人びと」

期日：平成 23 年 2 月 26 日（土）　13：30 ～ 15：00
対象：一般　５０名

「皆様のお越しをお待ちしております。」

第７回縄文の森春まつり

縄文村に春が来た！楽しいステージパフォーマンスあり、縄文体験あり、おいしくて人気の縄文料理もあります。今年の春まつりもたくさんのメニューでお待ちしています。
ゴールデンウィークは緑いっぱいの上野原縄文の森へお越し下さい。
５月３日（月）～５日（水）
１０：００～１５：００
※５月５日こどもの日は、県内の小・中学生の展示館入場料が無料となります。

縄文踊り

春の市

森の住人のコラム

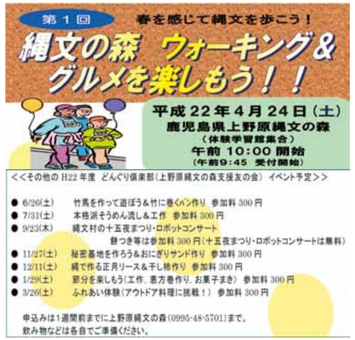
（財）鹿児島県地域振興公社
二瓶　靖

当公社は、開園以来「園地・樹木等管理」をさせていただいておりますが、管理手法として取り組んでいるのが「縄文ゼロエミッション・プロジェクト」です。
自然界への排出ゼロのシステムを構築する、またはそれを構築するように目指すことを基本的な考え方として、刈草は現場付近の家畜農家の飼料として処理し、リサイクル及び運搬時の CO_2 の削減に努めています。また、健全な樹林育成のため剪定をしますが、その枝葉は自社粉砕機によりチップ化し、堆肥化や樹林内に敷均するなど完全自然循環型を継続しています。
春を迎える森の見所は、体験エリアの落葉樹林が一斉に若葉を芽吹く模様が素晴らしいですね。薄緑の若葉が膨らんでくる樹林エリアにいると、自分の足下から縄文の大地のエネルギーと一緒に力が吸い込まれるような感覚になります。
それから、最も北側の樹林エリアにある樹高約８ｍのヤマザクラを中心とする早春の桜の花や体験エリアの古代家屋群の川沿いには約千本の「シャガ」の花が咲き乱れます。
是非、癒しの森「縄文の森」へおこしいただき、いろんな出会いを楽しんでいただけたらと思います。

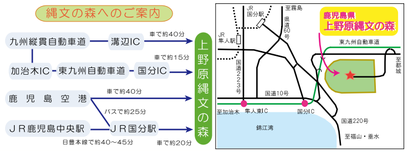
どんぐり倶楽部　副会長
川越　美津子

どんぐり倶楽部のメンバーになって５年が経ち、ますます縄文の森の魅力に気づかされる今日この頃です。子供達の為にと企画してきたイベントも、今思うと、人生の先輩方の知恵を沢山吸収させて頂き、親子共々、楽しませてもらい、そして成長させて頂いたような気がします。
いつの間にか煩雑な世の中になり、子供達の遊び場も少なくなり、地域や親子のコミュニケーションも希薄になってきております。こんな環境だからこそ、是非一歩足を踏み出して、この‘癒しの空間’縄文の森に親子でいらしてみて下さい。すばらしい自然環境の下、素敵な会員の皆さんとの出会い、貴重な体験活動を通して、今の子供達にとって一番大切な何かをきっと体で学べるはずです。
ここで遊ぶ子供達の笑顔は最高です。会員の私達もこの笑顔で元気をもらっています。新年度もこの笑顔の輪をもっともっと広げていける様に楽しい企画を準備して皆さんをお待ちしております。

どんぐりイベント



【開園時間】　午前9時～午後5時
（展示館入館は午後4時30分まで）
【休　園　日】　毎週月曜日（休日に当たるときは、その翌日）
（4/29～5/5及び8/13～15は無休）
12/30～1/1（年末年始）
【利用料金】（団体は20名以上）※展示館内の展示室・シアターのみ有料
◇個人　小・中学生 150円 高・大学生 210円 大人 300円
◇団体　小・中学生 120円 高・大学生 160円 大人 240円
（県内の学校が教育課程等に基づき学習活動の一環として利用するとき等は減免措置有り）



【編集・発行】財団法人鹿児島県文化振興財団　鹿児島県上野原縄文の森
〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森1番1号　電話(0995)48-5701　FAX(0995)48-5704
URL http://www.jomon-no-mori.jp　E-mail:uenohara@jomon-no-mori.jp

上野原縄文の森だより

UENOHARA JOMON NO MORI

2010.3
Vol.18

竪穴住居がリニューアル

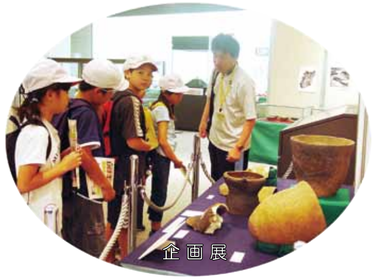
上野原縄文の森では見学エリアにある10棟の竪穴住居をリニューアルしました。
展示館3階にある展望所からは、真新しい復元集落が一望できます。

「縄文の森は自由研究の宝庫」

南九州はご存じ桜島に代表される、火山の活動が活発な地域です。そのため、大地には火山からの噴出物である軽石や火山灰（黄色やオレンジ色が多い）が層をなして堆積し、間に挟まれた腐植土（灰色や黒色が多い）の層とともに、まるでチョコレートケーキの断面といった様子がみられます。

上野原縄文の森にある地層観察館では、約24,000年前から約4,200年前までの本物の地層の様子を、むき出しの状態で見ることができます。これほどはっきりと地層の堆積の様子が色によって分かる生の教材は全国でも少なく、この地層観察館は理科の学習にもってこいの施設となっています。

平成２２年度は、小・中学生にもっと楽しんでもらう目的で、第２７回企画展『理科少年の考古学探検記』（考古学と科学の世界の関係をわかりやすく紹介）や、ミニ企画展として『～見る・聞く・触るジオの日～「地層が語る鹿児島の遺跡」』（５月１０日の地質の日に合わせて、地層や土壌などの「地質」と「考古学」の関係を紹介）を開催します。また、岩石や植物といった上野原縄文の森の自然を舞台とした『縄文の森不思議探検』を県立博物館と合同で開催します。



その他、体験学習館では、火おこし・土器作り・弓矢作り・アクセサリー作り・縄文料理（くん製や石蒸し料理・要予約）などの多くの体験活動ができ、見るだけではなく、実際に縄文時代を体感できます。

今年の夏休みの自由研究は、上野原縄文の森にお任せください。

お待ちしております。　（事業課　木内　敏生）

「第２６回企画展を振り返って」

↑ 初の県外からの展示物（宮崎県の埴輪）↓

第２６回企画展「いにしえびとの想い～考古資料で見る書・描・像の世界～」は、県外の資料を初めて展示するなど、新しい試みがありました。重要な出土品を運ぶ時は、美術専用車で運搬しなければならず、大変気を遣います。でも、お客様に感動していただき、苦労した甲斐がありました。

また、墨書土器に書いてある文字がよく分かるように、国分高校書道部の生徒さんに楷書で文字を書いてもらい、土器と一緒に展示しました。意欲的に取り組んでもらい、生徒さんの熱意を感じることができました。

今年も、いにしえびとの想いを感じてもらえるように、工夫した企画展を行っていきたいと思います。

↓ 国分高等学校書道部・吹奏楽部の皆さんとのコラボレーション ↓

第２６回企画展講演会の要旨

講師　ラ・サール学園　永山　修一　『鹿児島県の出土文字資料について』

（永山先生は、文字資料の専門家です。）

出土文字資料には、漆紙文書・木簡・文字瓦・金石文・墨書土器などがあり、鹿児島県では漆紙文書はまだ出土していない。大隅国分寺跡では「知職」と書かれた文字瓦が出土しており、知識＝自発的に寺院の造営に協力した人々の存在を示している。また、金石文には、現在東京国立博物館に所蔵されている大隅町（現曽於市）下岡経塚から出土した銅製経筒（「長治二年十月」（1105年）に埋納）などがある。

墨書土器は、鹿児島県内で約150の遺跡から1500点以上が出土している。９～10世紀に盛んに土器への墨書がおこなわれた。大半は１～３文字程度が墨書されており、それを分析することで、人の移動や古代の交通路、あるいはどのような祭祀が行われていたかなどを知ることができる。

古代の木簡は、薩摩川内市の京田遺跡でただ１点だけ出土している。その内容は、九条三里一坪の曽□□という所にある水田二段が勘取（差し押さえ）されたことを、嘉祥三年（850）三月十四日に、大領（郡司の長官）薩麻公と擬少領(次官候補者､名は欠)が「諸田刀祢」に告知するというものであり、用途終了後水田に打ち込む杭として転用され、一辺約3cm長さ40cmの四角い棒状の姿で出土した。薩摩国で、条里制が行われていたこと、隼人の有力氏族が９世紀代に国府の近くで勢力を持ち続けていたこと、田刀祢という有力農民が成長しつつあることなど、きわめて重要な情報を伝える資料である。こうした棒状の木簡には類例がなかったが、昨年、岩手県奥州市前沢区の道上遺跡の報告書が刊行され、直径約4cm、長さ45cmほどの棒状で、土地の立ち入り禁止を命じ、10世紀前半に水田の杭に転用された木簡の出土が報告された。当時の日本の南北の境界に当たる鹿児島県と岩手県で似たような木簡が出土したことは、今後全国的に類例が増加することを予感させる。

← 京田木簡（「京田遺跡報告書」より）

平成２１年度「縄文の森イベント風景」

今年度もたくさんのイベントを開催しました。その一部を紹介します。

考古学講座「南九州の縄文に学ぶ」

今年度からスタートした大人を対象とした考古学講座「南九州の縄文に学ぶ」。県立埋蔵文化財センターの職員による分かりやすい講義や発掘体験などたくさんの好評をいただきました。

縄文の森春・秋まつり

音楽パフォーマンスや火おこし大会、盛り上がりました。

おでかけ体験隊

学校や各種イベント会場へ出向き、多くの方に縄文体験を楽しんでもらいました。

縄文キャンプ村

竪穴住居への宿泊、縄文料理（夕食）他では体験できない人気のキャンプ。

アートギャラリー

様々な展示やコンサートなど、お客様の目と耳を楽しませていただきました。